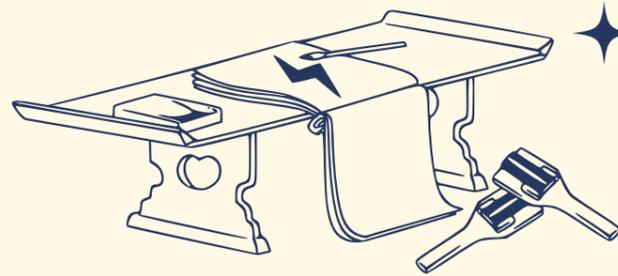


秋号
2025

地元の文化と情報を発信する

寺子屋瓦版



特別レポート

自分の目で見た能登の今

能登半島・輪島マリンタウンでの慰問公演・炊き出しに同行

10月12日(日)に再び行われた能登訪問。前回の瓦版でインタビューをさせていただいたご縁で、私たち電気と踊る寺子屋の理事2名も参加させていただくことに。今回は仮設住宅での生活を続けている約800名の方々を対象に行われる炊き出しと慰問公演です。経験と知識の少ない私たちは初夏～直前までの会議に全て参加し、出来ることは何でもしよう！という意気込みで準備を進めました。

迎えた当日。道中で私は驚愕しました。私が車を走らせるこの道は幹線道路のはず。そのアスファルトが所々でひび割れ、隆起している。その上を通り過ぎるたびに車は飛び跳ねます。今も土砂で埋まった片側車線。そんな場所をいくつも通り過ぎます。1年半以上経過してもなお残る大地震の脅威。ショックでした。話に聞くのと実際に目にするとでは全く違う感覚に、ひどく動揺しました。

インタビュー時に聞いた「私たちが元気を届ける側」という言葉が、突然に重くのしかかります。ふと、先日訪れた大阪万博のことが頭をよぎりました。賑わい溢れる人々、熱気、活気…それは「元気が約束された場所」でした。同じ日本の地、片方での現実がここまで違うなんて。ここで私ができることなんてあるのだろうか？到着後、設営を進めながらも情けない考えがぐるぐるとめぐります。



豊かさの人間の中に。どんな場所にも、必ず湧き出る



炊き出しの準備が整うにつれ、地域の人々が広場へと集まりはじめました。うじうじしていた私も、いらしてくださいと皆さんに声をかけ、焼きそばやお菓子をお渡しして、舞台の案内をします。一緒に輪踊りを体験してもらったり、舞台ではフルートやピアノの演奏、そしてもちろん、おたまた芸人一座の演舞とコントも。写真と動画の記録担当になった私は、徐々に会場の人が増えてゆくにつれて、会場全体の撮影をするのにあたふた。しばらくは無心でカメラを向け続けることとなりました。

そうこうしているうち、突然、あることに気づく瞬間が訪れました。それは、カメラを持っている自分が笑顔であるということ。なぜでしょうか？答えは簡単です。目の前の人が、笑顔だから。ああそうか…前回のインタビューで耳にした「幸せをもらった」というのは、こういうことだったのか。経済、物資、復旧状況、それが伴わないことに切なさを感じるのは事実です。しかし、数値では測ることが出来ない力を私は確かに感じました。もしかして私たちは、元気を届けるというよりも、「交換」しに来たのかもしれない、そう思いました。遠方からの支援や、情報の発信、そして受信。離れていてもそれは可能です。けれど私たちは今回、自分自身の頭と体でダイレクトに経験するという貴重な機会をもらったのだと感じました。

前回の慰問について主催である加茂郡富加町・光宗寺でお話を伺った際、ご住職が「次は、自分の目で見てごらん」そう言って誘ってくださったことがきっかけの今回の能登訪問。何かしらの役に立ちたいと息巻いていた私ですが、まず先に身をもって経験するべきものを知りました。ご住職の意図は、そこだったのかもしれませんが。

豊かさの源泉は「人」であるということ。出来事ではなく、場所ではなく、人にフォーカスしたい。私たちは社団法人として、今回の経験をもっと大きな「熱の交換」にしてゆこう。できるはずだ。そう決意する日でもありました。



本格機材を触っていじって 中高生向け電気制御ワークショップ
遊びながら電気制御が学べる！！

でんでん塾



『面白いを力に！』電気制御×鳴子踊り
文化と技術、ふたつの力で未来にパワーを！
中濃地域、長良川流域の地域コミュニティ



世代を超えて楽しむ鳴子踊り 地域密着 全世代型
メンバー大募集中！ 鳴子踊りチーム

ながら



発行：一般社団法人 電気と踊る寺子屋